

令和7年  
2025年

5月9日  
金曜日

第11707号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



「2025神戸ミートフェア」が3～5日までの3日間開催……P8

## 注目のヘッドライン

福留ハム 福原治彦社長 メッセージを  
提案、「MIRAI シリーズ」

…詳細はP2

【全国の食肉推定在庫・3月】全在庫は  
前年同月比5・8%増

…詳細はP3

- ▶ 福留ハム 福原治彦社長 メッセージを提案、「MIRAI シリーズ」…………… P 2
- ▶ [全国の食肉推定在庫・3月] 全在庫は前年同月比 5・8 % 増…………… P 3
- ▶ 「収益回復を進める」—伊藤ハム米久HD 決算会見 ①…………… P 4～5
- ▶ [牛肉需給動向・3月] 推定出回り量は前年比 16・7 % 減…………… P 5
- ▶ 「～ひろがる!ハラル食品 ここにもあそこにも!!～」—農水省…………… P5
- ▶ プリマハム決算会見①、ハム・ソーセージの売り上げは前年を上回る…………… P6～7
- ▶ [豚肉需給動向3月] 推定出回り量は前年同月比 4・8 % 減…………… P 7
- ▶ ペPPERランチ、「ベーコンチーズペッパーライス」期間限定で復刻登場…………… P7
- ▶ 「2025神戸ミートフェア」が3～5日までの3日間開催される…………… P 8
- ▶ バーガーキング、既存店売上34カ月連続前年越え「ワッパー祭り」開催…………… P 8
- ▶ [輸入牛現物相場] Cナールが値頃感で動くも焼き材需要ではなく代替需要…………… P9
- ▶ [ブロイラー市中現物相場] 国産生鮮物GW中に一段高…………… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 8日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 8日…P11

りんご和牛  
信州牛  
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉  
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する  
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12  
営業一課 / ☎ (03) 3919-2929 FAX (03) 3919-2930  
総務 / ☎ (03) 3919-2980 FAX (03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

## 福留ハム 福原治彦社長 メッセージを提案、「MIRAI シリーズ」

——昨年の状況を教えてください。

加工メーカーとして目新しい魅力ある商品を打ち出せていない中で、原料事情やコストプッシュの厳しい環境ではあるが、一から原材料を見直したり、作り方を考えたり、原点に戻ることが必要だと思います。

あくまで、お客さまが求めている価格帯と品質に見合ったものを提供していくことが大切だと思います。物価高で手取りが増えておらず、そういった中でも皆さんのニーズにお応えできる商品を届けたいと思います。

——食肉、加工品それぞれ評価は。

食肉、加工品ともダメだと思います。食肉は国産が多い中、牛肉はそこそこ売れました。豚肉はボリュームとしては売りましたが、コストアップを売価に反映できず収益性が厳しかった。輸入食肉は総じて厳しいです。

加工品についても生産量ダウンが大きい。価格改定を行ったが数量が伸びず、4~9月では16%ほど落ちました。当然、付加価値の高いものを売るということを経営的には目指す一方、求めやすい価格帯の商品を充実させることも必要。原料や製造工程の見直しを進め、収益性を高め、ボリュームが取れる商品も開発していかなければならないと感じています。

——販路別には業務用の強化を図られましたか。

全体の売り上げをみると、業務用が微増となりました。ただ、加工品というよりも、新たに鶏肉を増やしてきたこともあり、食肉が上積みとなった感があります。値上げの影響もあってハム・ソーセージは厳しいです。量販店での販売もダウンしています。

——注力する営業エリアは。

営業エリアは中四国、九州がメインであることには変わりなく、キャパシティが限られる中でシェアアップを図っていききたいと思います。

関西や関東には営業のリソースがあるわけではないため、現地企業と深掘りを進めたいと思います。そういったところでは物流対策も含めて変えていく中で、市場としては大きいので、既存のお客さまも含めてしっかり深掘りしていきたいと考えています。

——物流に関しては協業も進められますか。

業界としても宣言などがありましたし、業界全体として取り組みが進められていることもありますので、そこはスタンダードな流れに乗っていかうか、これまでの、商談はできても物を届けるのが難しい—といった問題などは解消されていくメリットが大きくなると思います。

——新たな取り組みは。

今回提案した「MIRAIシリーズ」については、効率化を求める一方で国産豚肉と塩しか使用していない商品。肉のポテンシャルを追求しました。専用の製造施設を用意し、健康やおいしさを訴求できるものに仕上げています。

「手間がかかる」と「手間をかける」では少し意味合いが違うと思います。独自性のある、こだわりの商品としてメッセージを提案していきたい。ストーリー性を訴えることができると思うのでECなども活用し、チャンネルを幅広く使っていきたいと思っています。

——商品の絞り込みなど効率面については。

ブランドごとに考えるのか、原材料によって考えるのか、そういった流れを考えて作っていききたい。価格帯も異なり、売り場もそうになっていますし、そういった部分は従来以上にメリハリを考える必要があります。お客さまもそういった考えでいらっしゃる。そこに合わせる必要はあります。

——人的投資は。

開発などへの人材投入は進めましたが、頭数をそろえるというよりは少数精鋭になることはあります。やはり育成が大事になると思いますし、今いる人がレベルアップすることに力を入れる必要があります。



**[全国の食肉推定在庫・3月] 全在庫は前年同月比5・8%増**

農畜産業振興機構が公表した3月分の食肉等の推定月末在庫によると、全在庫は58万1217t(前年同月比5・8%増)と前年同月を上回り、前月比は0・2%の減少となった。

畜種別では牛肉の輸入在庫が12万1690t(9・4%増)となり、前月からは1・0%減。国産在庫は1万518t(19・8%減)となり、前月比では3・9%増となった。牛肉全体の推定在庫は13万2208t(6・3%増)となり、前月比では0・7%減となった。

豚肉は輸入在庫が19万2115t(15・6%増)と前年同月から増加。前月比は0・4%減となった。一方、

国産在庫は2万4424t(5・7%増)と前年同月を上回り、前月比でも1・3%増となった。豚肉全体の推定在庫は21万6539t(14・4%増)となり、前月比では0・2%減となった。

また、鶏肉の輸入在庫は13万1242t(1・7%増)と増加し、前月比では5・7%減となった。国産在庫は2万5771t(30・1%減)となり、前月からは0・2%増となった。鶏肉全体の推定在庫は15万7013t(5・4%減)となり、前月からは4・8%減となっている。

[2025年3月の食肉の推定在庫]

単位:トン、比率%

区分		10月	11月	12月	2025年1月	2月	3月	対前月比	対前年比	
牛	全在庫	175,733	167,008	156,538	157,510	156,570	161,971	103.4	107.3	
	冷凍品	159,146	150,025	140,233	141,564	141,637	146,374	103.3	109.6	
	冷蔵品	16,587	16,983	16,305	15,946	14,933	15,597	104.4	90.2	
	未通関計	19,425	19,350	16,043	21,279	23,485	29,763	126.7	112.0	
	推定期末在庫	156,308	147,658	140,495	136,231	133,085	132,208	99.3	106.3	
	冷凍品	139,870	130,952	124,437	120,313	118,348	117,154	99.0	108.9	
	冷蔵品	16,438	16,706	16,058	15,918	14,737	15,054	102.2	89.8	
	肉	輸入在庫計	145,078	136,791	129,801	126,100	122,960	121,690	99.0	109.4
		冷凍品	129,844	121,318	114,974	111,234	109,309	107,787	98.6	112.8
		冷蔵品	15,234	15,473	14,827	14,866	13,651	13,903	101.8	88.9
内 国産在庫計		11,230	10,867	10,694	10,131	10,125	10,518	103.9	80.2	
冷凍品		10,026	9,634	9,463	9,079	9,039	9,367	103.6	78.2	
冷蔵品		1,204	1,233	1,231	1,052	1,086	1,151	106.0	102.1	
豚	全在庫	240,303	230,632	220,553	228,090	231,414	232,047	100.3	114.8	
	冷凍品	224,376	216,852	205,762	212,734	216,081	215,709	99.8	114.1	
	冷蔵品	15,927	13,780	14,791	15,356	15,333	16,338	106.6	123.5	
	未通関計	16,997	14,446	12,359	14,046	14,474	15,508	107.1	119.5	
	推定期末在庫	223,306	216,186	208,194	214,044	216,940	216,539	99.8	114.4	
	冷凍品	207,714	202,660	193,617	198,982	202,122	200,723	99.3	113.8	
	冷蔵品	15,592	13,526	14,577	15,062	14,818	15,816	106.7	122.8	
	肉	輸入在庫計	201,922	194,797	185,736	190,508	192,819	192,115	99.6	115.6
		冷凍品	186,835	181,727	171,973	175,901	178,519	176,859	99.1	115.0
		冷蔵品	15,087	13,070	13,763	14,607	14,300	15,256	106.7	124.3
内 国産在庫計		21,384	21,389	22,458	23,536	24,121	24,424	101.3	105.7	
冷凍品		20,879	20,933	21,644	23,081	23,603	23,864	101.1	106.0	
冷蔵品		505	456	814	455	518	560	108.1	91.2	
鶏	全在庫	180,983	178,308	171,211	172,714	171,643	164,337	95.7	95.1	
	未通関計	7,669	8,205	6,706	7,302	6,709	7,324	109.2	106.7	
	推定期末在庫	173,314	170,103	164,505	165,412	164,934	157,013	95.2	94.6	
	肉	輸入在庫計	141,112	139,323	134,940	139,154	139,214	131,242	94.3	101.7
内 国産在庫計		32,202	30,780	29,565	26,258	25,720	25,771	100.2	69.9	
羊	全在庫	4,615	4,098	3,563	3,396	3,195	2,915	91.2	76.3	
	未通関計	320	311	327	258	217	191	88.0	62.2	
	推定期末在庫	4,295	3,787	3,236	3,138	2,978	2,724	91.5	77.5	
	肉	輸入在庫計	4,165	3,669	3,122	3,032	2,863	2,572	89.8	76.0
内 国産在庫計		130	118	114	106	115	152	132.2	116.9	
その他	全在庫	21,408	21,445	20,195	19,857	19,570	19,947	101.9	101.9	
	未通関計	1064	484	628	899	736	972	132.1	158.0	
	推定期末在庫	20,344	20,961	19,567	18,958	18,834	18,975	100.7	100.1	

## 「収益回復を進める」—伊藤ハム米久 HD 決算会見①

伊藤ハム米久ホールディングスは2日、オンラインで2025年3月期決算会見を行った。会見には宮下功代表取締役社長(写真中央)、浦田寛之副社長執行役員(同右)、野澤克己取締役常務執行役員管理本部長(同左)らが出席した。



会見冒頭、宮下社長があいさつとともに決算概況について次のように説明した。

昨年度は増収減益となった。セグメントでいうと、加工食品事業は増収増益だった。製品の価格改定などによって増収としながら、コスト削減、生産性向上に努め、原材料費や物流費の上昇分をカバーして増益となった。一方で食肉事業は増収減益となった。大きな要因はアンズコフーズ社の業績など海外要因、また国内では特に豚肉事業の収益悪化が影響した。

今期については増収増益を予定している。加工食品では、前年に続き、コスト削減や生産性向上に努めるとともに、販売数量の回復に注力していく。食肉は、前期の減益要因であるアンズコフーズの収益回復、国産豚肉の相場に左右されない経営体制の構築(取引条件の見直しなど)によって収益回復を目指していく。

なお、今期の業績見通しは売上高1兆300億円、経常利益275億円を見込んでいる。配当については、すでに発表している通り、ホールディングス設立10周年の記念配当である175円に加え、普通配当は前年度と同じく145円、合わせて320円の配当を予定している。

続いて、野澤取締役が決算概況の詳細について次のように説明した。

先ほど説明があった通り、2024年度は増収減益となった。売上高は、前期比332億円増の9888億円となったが、営業利益は28億円減の196億円、経常利益も53億円減の208億円となり、その結果、最終損益である当期純利益は25億円減の131億円となった。地域別売上高では、売上高の増加(332億円)

を日本国内と海外とに分けると、日本国内ではハム・ソーセージ、調理加工食品の価格改定と食肉で主に牛肉、豚肉の販売単価上昇により227億円、海外では中国経済の停滞からアジア向けの販売が減少した一方で北米や豪州への販売にシフトしたことにより105億円の増加となった。海外比率に関しては、前期と比較して0.6ポイント増の15.1%となった。

販管費は35億円の負担増の1137億円。引き続きコスト削減に努めていくが、負担増の主な要因となる物流費は、単価影響などによるコスト上昇で31億円増加している。営業外損益では、主に海外での借入金増加に伴う金融収支悪化(4億円)などがあった。

また、前年にニュージーランドの牛疾病対策費用の政府補償金があったことから、助成金・補償金収入が26億円減少した。特別損益では、固定資産除却損の減少に加え、生産事業の収益性悪化に伴う減損損失が15億円増加、また前年に三島工場の建設による旧ケンコー工場の閉鎖に伴う関連費用が10億円あったことなどで、前年と比較して20億円増加している――。

同社では今年6月の株主総会をもって宮下社長は会長に就任予定となっている。また、後任として浦田副社長が総会後の取締役会で代表取締役社長に就任予定だ。決算概況の説明に続いて浦田新社長が次のようにあいさつを述べた。

簡単に私の経歴を紹介すると、前職は三菱商事で最初の配属は人事部だった。20代半ばで自ら希望して異動して以降、ほぼ一貫して畜産部門(食肉および食肉加工)の事業領域でキャリアを歩んできた。この間、2010年代に伊藤ハムで3年間、米久で2年間勤務していた。今回、思い入れの強いこの会社に戻ってきたということになる。よく知っている社員やメン

バーと一緒に仕事ができることを大変うれしく思うのと同時に、昨今の厳しい環境の中で重責を担うことになるので、気を引き締めていきたいと考えている。この

会社をさらに成長させていくことが、全てのステーキホルダーの皆さまの期待に応えることになると考えているので頑張っていきたい——。(連載続く)

## [牛肉需給動向・3月] 推定出回り量は前年比 16・7%減

農畜産業振興機構が発表した3月分の牛肉需給動向によると、推定出回り量は5万9162t(前年同月比16・7%減)と前年同月を下回った。このうち国産品は2万6937t(2・6%増)、輸入品は3万2225t(28・1%減)となった。

国内生産量は2万8305t(1・4%減)と減少し、輸入量は3万955t(19・3%減)となった。これにより、推定期末在庫は国産品が1万518t(19・8%減)、輸入品が12万1690t(9・4%増)で合計13万2208t(6・3%増)となった。

[牛肉需給]

単位:トン、%

年月	生産量	輸入量	推定期末在庫		推定出回り量	
			輸入物	国産物	輸入物	国産物
4年 12	31,727(101.2)	37,456(82.0)	142,876(118.7)	12,690(93.9)	44,594(86.6)	30,858(99.3)
5年 1	26,660(103.5)	39,915(98.8)	143,273(118.1)	11,956(90.5)	39,518(100.1)	26,963(105.4)
2	26,497(107.4)	37,987(100.6)	142,589(119.4)	12,345(87.7)	38,671(97.5)	25,467(109.1)
3	29,499(103.4)	36,768(108.4)	137,128(119.6)	12,596(95.6)	42,229(109.2)	28,484(98.8)
4	30,207(101.6)	67,921(110.4)	147,784(129.4)	12,371(104.8)	57,265(92.4)	29,694(97.1)
5	27,295(102.1)	46,459(101.5)	148,317(125.4)	12,252(97.8)	45,926(110.3)	26,851(105.4)
6	28,418(102.7)	43,663(75.7)	148,065(114.2)	12,243(95.5)	43,915(94.7)	27,806(103.5)
7	30,671(102.0)	38,693(74.4)	146,616(106.7)	12,474(94.1)	40,142(90.7)	29,809(102.8)
8	26,782(101.0)	45,668(85.4)	148,038(101.0)	12,343(93.2)	44,246(100.1)	26,275(101.5)
9	28,100(100.0)	37,023(71.3)	143,424(94.2)	12,902(94.6)	41,637(89.8)	26,739(99.0)
10	30,422(105.4)	40,334(83.0)	137,851(90.8)	13,026(99.5)	45,907(93.8)	29,462(103.1)
11	35,030(98.6)	33,409(84.8)	125,976(84.0)	12,805(100.8)	45,284(109.8)	34,409(97.7)
12	31,557(99.5)	36,092(96.4)	117,207(82.0)	12,619(99.4)	44,861(100.6)	30,833(99.9)
6年 1	27,314(102.5)	43,264(108.4)	122,238(85.3)	11,618(97.2)	38,233(96.7)	27,712(102.8)
2	26,904(101.5)	31,010(81.6)	117,666(82.5)	11,442(92.7)	35,582(92.0)	26,385(103.6)
3	28,696(97.3)	38,362(104.3)	111,229(81.1)	13,108(104.1)	44,799(106.1)	26,259(92.2)
4	31,124(103.0)	63,202(93.1)	124,210(84.0)	11,835(95.7)	50,221(87.7)	31,618(106.1)
5	28,270(103.6)	48,512(104.4)	128,998(87.0)	12,269(100.1)	43,724(95.2)	27,283(101.6)
6	27,418(96.5)	47,574(109.0)	135,344(91.4)	11,885(97.1)	41,228(93.9)	27,030(97.2)
7	32,089(104.6)	49,342(127.5)	140,727(96.0)	11,271(90.4)	43,959(109.5)	31,959(107.2)
8	25,885(96.6)	48,897(107.1)	147,288(99.5)	10,966(88.8)	42,336(95.7)	25,425(96.8)
9	28,276(100.6)	38,168(103.1)	144,550(100.8)	11,298(87.6)	40,906(98.2)	27,023(101.0)
10	31,210(102.6)	43,933(108.9)	145,078(105.2)	11,230(86.2)	43,405(94.6)	30,469(103.4)
11	34,984(99.9)	34,574(103.5)	136,791(108.6)	10,867(84.9)	42,861(94.6)	34,417(100.0)
12	32,225(102.1)	39,209(108.6)	129,801(110.7)	10,694(84.7)	46,199(103.0)	30,631(99.3)
7年 1	27,305(100.0)	32,541(75.2)	126,100(103.2)	10,131(87.2)	36,242(94.8)	27,231(98.3)
2	26,345(97.9)	29,353(94.7)	122,960(104.5)	10,125(88.5)	32,493(91.3)	25,602(97.0)
3	28,305(98.6)	30,955(80.7)	121,690(109.4)	10,518(80.2)	32,225(71.9)	26,937(102.6)

## 「～ひろがる！ハラール食品 ここにもあそこにも！！～」—農水省

農水省は農水省北別館1階「消費者の部屋」で12～23日、ハラール食品について紹介する展示イベントを開催する。

日本の農林水産物・食品の世界への輸出増加、日本国内のインバウンド増加に伴い、「ハラール食品」への需要・関心が高まっている中、同展示では、ハラール食品とは何か、国内で製造されているハラール食品や地方農政局における取り組みなどを紹介す

る。概要は以下のとおり。

あふ食堂＝ムスリムフレンドリーのラーメンおよびカレーを提供。農林生協総合売店＝全国各地から取り寄せたハラール商品を販売。三省堂書店＝ハラール関連書籍を販売▷開催期間 12～23日、10～17時(土日祝日は除く。初日は12時～、最終日は13時まで)▷開催場所 農水省北別館1階「消費者の部屋」

## プリマハム決算会見①、ハム・ソーセージの売り上げは前年を上回る

プリマハムは7日、同日発表した2025年3月期通期決算会見を東京都品川区の本社で開催。会見には千葉尚登社長(写真)、新川裕二専務執行役員営業本部長、田悟敏弘専務執行役員生産本部長、網野真専務執行役員食肉事業本部長、鯛健一常務執行役員総合企画本部長、中島聡常務執行役員管理本部長らが出席した。概要は次のとおり。

【千葉社長】24年度の連結売上高は前年比99億円増となったが、営業利益は29億円減となり、当期純利益も前年に届かなかった。原材料や製造費用が上昇したことで、売上総利益率が前年から0.6ポイントダウン。人件費は前年から好転したものの、経費が悪化したため、販売管理費比率も0.1ポイント下がり、営業利益率は0.7ポイントの悪化となった。

今年2月3日に公表した通期業績予想と比べ、売り上げ、利益ともに予想を下回っている。その時点では値上げ効果の継続や、さらに得意先の手CVSの業績悪化により、プライムデリカの収益が非常に厳しかったことに対して何らかの改善効果が出ることを期待していたが、それもあまりなかった。

ここ数年の連結売上高については、値上げの効果に加え、ハム・ソーセージを中心に販売数量が伸びていることから、着実に増加。食肉についても最近は数量を伸ばしている。

ただ、利益面については、昨年頃からはコロナ下でのマイナスからプラスに変化することを見込んでいたが、さまざまな理由からなかなかそうならない。特に営業利益率は、24年度は2.0%まで落ち込んでいる。

セグメントごとにみると、加工食品事業部門の営業利益は前年から32億円減少。当社は同業他社と比べてこの分野が相対的に強かったが、ここが落ち込んだことが大きかった。ただ、加工食品事業部門全体ではマイナス32億円だったものの、プリマハム単体、すなわちハム・ソーセージを中心とした営業利益についてはマイナス7億円であり、単体以外の事業がかなり苦戦したことが分かる。商品別売上高で見ると、ハム・ソーセージは64億円増、食肉も94億円増だが、総菜は売り上げが振るわず、結果として営業利益に影響した。ハム・ソーセージの売り上げは毎年前年を



上回って推移しており、年度単位でも他社を上回ることができた。

一方、加工食品については、なかなか前年を上回ることができていない。

全体では前年から32億円減だが、ベンダー子会社がそのうち27億円減。価格転化によってコストアップをカバーするという意味では、コストアップには及ばなかったものの、5億円減にとどめている。為替レートは上期と下期でだいぶ違っている。当社は海外から原料を輸入することが多く、実際の為替レートから数カ月後にその原料を使った商品を販売しており、為替の影響は半年近く遅れる。上期は154円から160円台を付けており、この頃の為替レートの商品が下期に出荷されると、価格転嫁に追いつかなかった。

食肉事業部門の営業利益については、前年比4億円増。販売事業はマイナス6億円だったが、養豚事業がプラス10億円となった。販売事業については相場状況もあってマイナスとなったが、養豚事業については高値相場の中でしっかりと販売することができた。

25年度は売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで前年度を上回る見通しを立てているが、不安定要素もいくつかある。また、設備投資額のうちDX投資に119億円を見込んでおり、システム刷新を進める。

通期ベースでは、加工食品部門の営業利益は前期比33億円増、食肉部門も12億円増を見込む。これには大前提があり、大手CVS向けのプライムデリカのオペレーションが23年度並みになることを見込んでおり、まだ予断を許さない状況だ。また、この計画値を作成した今年2月頃の為替レートは非常に高かった。ただ、今後の動向は不透明であり、やや保守的な

為替レートに設定している。今後も動向を注視していきたい。(連載続く)

## 【豚肉需給動向3月】 推定出回り量は前年同月比4・8%減

農畜産業振興機構が発表した3月分の豚肉需給動向によると、推定出回り量は14万2266t(前年同月比4・8%減)となった。このうち国産品は7万5606t(0・1%増)、輸入品は6万6660t(9・8%減)と減少した。

また、国内生産量は7万6052t(1・7%減)、輸入量は6万5956t(11・3%減)となった。これにより、推定期末在庫は国産品が2万4424t(5・7%増)、輸入品が19万2115t(15・6%増)で合計21万6539t(14・4%増)となった。

【豚肉需給】

単位:トン、%

年月	生産量	輸入量	推定期末在庫		推定出回り量	
			輸入物	国産物	輸入物	国産物
4年 12	79,677( 97.0)	68,853( 92.5)	185,413(127.3)	19,816( 86.5)	78,996( 94.6)	78,456( 97.3)
5年 1	77,322( 97.2)	74,837( 90.7)	188,666(122.5)	18,538( 79.8)	71,584( 96.5)	78,645( 99.4)
2	72,986( 98.9)	71,250( 99.2)	189,121(121.2)	19,905( 85.9)	70,795(101.4)	71,512( 97.1)
3	81,689( 98.3)	69,027( 96.1)	189,572(121.4)	20,232( 84.3)	68,576( 95.5)	81,215( 98.8)
4	73,794( 96.8)	109,570(100.7)	204,045(120.0)	20,573( 92.5)	95,097(100.2)	73,311( 94.2)
5	76,116(105.0)	89,729(115.9)	223,902(126.5)	20,193( 90.0)	69,872( 99.2)	76,372(105.8)
6	73,486(100.4)	81,311( 91.1)	225,208(117.1)	19,586( 92.6)	80,005(108.2)	73,928( 99.4)
7	68,264(101.2)	74,831( 90.1)	220,067(110.0)	20,758( 97.7)	79,972(106.3)	66,926( 99.6)
8	70,175( 99.5)	73,862( 85.4)	217,704(104.7)	21,032(103.3)	76,225( 97.0)	69,796( 97.8)
9	69,500( 95.5)	61,727( 85.1)	203,477( 99.5)	21,452(110.7)	75,954( 99.9)	68,945( 93.6)
10	78,467(103.9)	70,100( 92.5)	192,812( 98.3)	19,689(100.0)	80,765( 96.0)	80,065(106.6)
11	82,650(101.9)	74,813( 85.1)	184,253( 94.2)	20,154(107.5)	83,372( 94.3)	82,084(100.2)
12	81,152(101.9)	67,663( 98.3)	170,120( 91.8)	21,381(107.9)	81,796(103.5)	79,774(101.7)
6年 1	80,283(103.7)	72,027( 96.2)	173,172( 91.8)	20,836(112.4)	68,975( 96.4)	80,748(102.7)
2	77,558(106.3)	64,527( 90.6)	165,686( 87.6)	21,439(107.7)	72,013(101.7)	76,853(107.5)
3	77,333( 94.7)	74,351(107.7)	166,119( 87.6)	23,117(114.3)	73,918(107.8)	75,518( 93.0)
4	78,976(107.0)	98,780( 90.2)	174,059( 85.3)	22,670(110.2)	90,840( 95.5)	79,317(108.2)
5	76,183(100.1)	94,087(104.9)	189,925( 84.8)	24,239(120.0)	78,221(111.9)	74,520( 97.6)
6	66,310( 90.2)	81,660(100.4)	193,156( 85.8)	24,750(126.4)	78,429( 98.0)	65,692( 88.9)
7	71,679(105.0)	86,155(115.1)	195,529( 88.8)	23,227(111.9)	83,782(104.8)	73,101(109.2)
8	65,651( 93.6)	84,078(113.8)	200,290( 92.0)	22,108(105.1)	79,317(104.1)	66,675( 95.5)
9	68,773( 99.0)	78,666(127.4)	201,197( 98.9)	21,580(100.6)	77,759(102.4)	69,219(100.4)
10	79,625(101.5)	86,742(123.7)	201,922(104.7)	21,384(108.6)	86,017(106.5)	79,699( 99.5)
11	78,361( 94.8)	78,216(104.5)	194,797(105.7)	21,389(106.1)	85,341(102.4)	78,249( 95.3)
12	80,661( 99.4)	76,518(113.1)	185,736(109.2)	22,458(105.0)	85,579(104.6)	79,425( 99.6)
7年 1	79,908( 99.5)	80,505(111.8)	190,508(110.0)	23,536(113.0)	75,733(109.8)	78,746( 97.5)
2	72,607( 93.6)	71,911(111.4)	192,819(116.4)	24,121(112.5)	69,600( 96.6)	71,884( 93.5)
3	76,052( 98.3)	65,956( 88.7)	192,115(115.6)	24,424(105.7)	66,660( 90.2)	75,606(100.1)

## ペッパーランチ、「ベーコンチーズペッパーライス」期間限定で復刻登場

㈱ホットパレット(東京都江東区、池野隆社長)が運営するペッパーランチは、昨年夏に実施した「【ペッパーランチ30周年記念】復刻メニュー総選挙～あなたが食べたいメニューは?!～」で約4分の1の票を集めた大人気メニュー「ベーコンチーズペッパーライス」(税込み790円・ライス大盛り880円)を14日から期間限定で復刻販売する。

鉄皿の上で香ばしく焼けたベーコンのジューシーなうまみと、濃厚チーズのコクが、熱々のペッパーライ

スに絡み合う、やみつきになる味が帰ってくる。

今回は、当時の複数レシピの中から、今の同店の自慢のソースに最も合う味わいにブラッシュアップ。懐かしさはそのままに、よりスプーンが止まらない“今のおいしさ”として進化させ、「また食べたい!」というたくさんの方の声に応え実現した復刻企画で、ランチにも、ちょっとした自分へのごほうびにも、ぴったりな一皿で、当時の味を知っている人も、まだ出会っていない人も堪能できるキャンペーンとなっている。

## 「2025神戸ミートフェア」が3～5日までの3日間開催される

「2025神戸ミートフェア～肉の街KOBE～」(主催=2025神戸ミートフェア実行委員会)が3～5日の3日間、神戸市中央区の中突堤で開催された。

兵庫県食肉事業協同組合連合会や神戸肉流通推進協議会、食肉加工メーカー、兵庫県内の人気食肉専門店など、食肉専門事業者が中心となり出展。専門事業者ならではの良心的な価格で、各団体それぞれこだわりのメニューを提供した。

新型コロナウイルス感染症が国内で初めて発生した20年に開催計画が中止となり、以後、開催が見送られていたが、昨年5年ぶりに開催され大盛況となった。今回も期間中は好天に恵まれ、各ブースに長蛇の列ができるなど盛況となった。

オープニングセレモニーでは、神戸市経済観光局の大畑公平局長が関係団体の協力について謝辞を述べ「神戸ミートフェアはゴールデンウィーク(GW)の風物詩といえるほど、長い間、皆さま方に肉の魅力をPRしてきた。世界でも非常に認知度が高い『神戸ビーフ』、そしておいしい食肉を通じて、皆さま方にGWのひとつ時を楽しんでいただければと思う。神戸市も神戸の自然豊かな環境で育まれた食文化をしっかり発信し、安全・安心な牛肉の消費拡大につなげていきたい」とあいさつ。テープカットとともに盛大に開催された。

出展者と出展・販売内容は次のとおり。



明石ビール(クラフトビールほか)▷伊藤ハム販売(グランドアルトバイエルンほか)▷うらい(神戸ビーフの素麺ほか)▷エスフーズ(こてっちゃんほか)▷神戸牛専門店辰屋(神戸牛牛めしほか)▷神戸市(畜産PR)▷神戸肉流通推進協議会(神戸ビーフの販売と試食)▷サッポロビール(サッポロ生ビール黒ラベルほか)▷新生公司(神戸ビーフスペアリブスパイス焼ほか)▷林兼産業(フランクフルトほか)▷帝神志方ミート(黒毛和牛サイコロステーキほか)▷兵庫県食肉事業協同組合連合会(国産牛肉ステーキ)▷兵庫県食肉消費対策協議会(じゃんぼすき焼きの試食)▷兵庫六甲農業協同組合(野菜ほか)▷プリマハム(香薫ウインナーほか)▷本神戸肉森谷商店(コロケほか)▷日本ハムマーケティング(シャウエッセンホットドッグほか)

## バーガーキング、既存店売上 34 カ月連続前年越え「ワッパー祭り」開催

(株)ビーケージャパンホールディングス(東京都千代田区、野村一裕社長)は、12～16日の5日間限定で対象商品5種のワッパーセットが通常価格より最大30%オフの300円引きで楽しめる「ワッパー祭り」を開催する。

同社は2022年6月～2025年4月の34カ月連続で既存店売上高が前年を上回り、継続した成長を続けている。その感謝を込めたキャンペーン。

対象商品は、同店自慢の直火焼きの100%ビーフパティにコクのあるチェダーチーズを合わせた人気ナンバー1メニュー「ワッパーチーズ」(税込み990円

→690円)、直火焼きの100%ビーフパティを2枚重ねたボリュームミーな「ダブルワッパーチーズ」(1340円→1040円)、スモーキーなおいしさが特長の「ブルズアイ™ BBQソース」を使用した「スモーキーBBQワッパー」(970円→670円)、焦がしねぎと赤みそが隠し味のうまみあふれるテリヤキソースで仕上げた「テリヤキワッパー」(970円→670円)、うま辛スパイシーソースが食欲をそそる「スパイシーワッパー」(970円→670円)のセット5種で店内飲食・テイクアウトどちらも利用できる、お得なクーポンでワッパーが楽しめるキャンペーンとなっている。

## 【輸入牛現物相場】 C ナーベルが値頃感で動くも焼き材需要ではなく代替需要

豪州産チルドは連休直前からナーベルが動き、相場が上昇した。焼き材需要がようやく到来したかと思いきやそうではなく、値頃感から高騰している部位の代替需要のようだ。引き続き、末端ではモモ、カタといった赤身に需要がある。通関切れでまとまった入荷があったものの、今後も不安定な入荷が想定され、相場は高値維持で推移している。米国産チルドはショートプレートの価格が下がるかに思われていたが、前週を維持。荷動きはショートプレートとチャックアイロールが中心ながら、仕入れも絞りに込んでいるため、相場はしばらく現状維持か。

【輸入牛肉現物相場】

		円/キロ	
		グラス	ショートグレイ
豪州産	トップサイド	1,350 ~ 1,400	1,450 ~ 1,550
	シックフランク	1,400 ~ 1,450	1,480 ~ 1,550
	アウトサイド	1,300 ~ 1,350	1,400 ~ 1,450
	ポイント	1,250 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	ナーベル	1,100 ~ 1,200	1,150 ~ 1,400
	ランプ	1,500 ~ 1,600	1,750 ~ 1,900
	クロッド	1,300 ~ 1,350	1,350 ~ 1,450
	チャックロール	1,450 ~ 1,550	1,600 ~ 1,650
	チャックテンダー	1,400 ~ 1,450	1,500 ~ 1,550
	キューブロール	3,000 ~ 3,200	3,800 ~ 4,000
	ストリップロイン	2,300 ~ 2,400	2,500 ~ 2,600
	テンダーロイン	4,300 ~ 4,500	4,700 ~ 4,800
豪州産	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,300 ~ 1,350	-
	ナーベル	1,100 ~ 1,200	-
	カウミート	960 ~ 1,200	-
F	トップサイド	1,450 ~ 1,550	-
	シックフランク	-	-

フローズンは豪州産では赤身が不足気味でバラが荷余り傾向だ。バラも極端な投げ売りをすれば動くがそこまでする企業は少ない。末端の引き合いはチルドと同じだが、仕入れを絞りに込んでいる分、足りない部位はチルド以上に逼迫感<sup>ひっばく</sup>が強い。米国産はショープレが前週よりも若干低相場で推移している。

ゴールデンウイークは曜日回りが悪く、大型連休になりづらかったものの、各地の混雑具合からすると、旅行者が多かったように思われる。気候も過ごしやすく、快晴の日も多かった。しかし、値頃感を打ち出せないことから、焼き材需要の喚起には至らなかったようだ。連休中の量販店をみると、豚肉や鶏肉の盛り合わせを焼き肉用に展開する売り場づくりをしている店舗が多かったように見受けられる。初夏までのシーズンで牛肉需要を呼び込むには、やはり仕入価格次第か。

		チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,650 ~ 1,750	1,500 ~ 1,600
	ショートプレート	1,250 ~ 1,300	1,080 ~ 1,150
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	3,500 ~ 3,600	-
	ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,500	-
	リブアイロール(リップオン)	4,700 ~ 4,800	-
	テンダーロイン	5,000 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
米国産	チャックアイロール(チョイス)	2,050 ~ 2,200	1,750 ~ 2,000
	同(プライム)	2,400 ~ 2,600	1,950 ~ 2,300

## 【ブロイラー市中現物相場】 国産生鮮物 GW 中に一段高

◇国産物 工場の稼働が少なく、また、家庭での調理機会が増加するGW中に生鮮モモ、生鮮ムネともやや値を上げ、日経荷重平均の東京相場で5月2日にはそれぞれ831円、474円となった。GW明け以降、涼味商材の生鮮ムネはもちあい、生鮮モモは軟調で推移。冷凍物はおおむねもちあい。

### ◇輸入物

ブラジル産、タイ産、米国産とも、高値張り付き

### ブロイラー現物相場

国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	600~630
ムネ正肉(〃)	400~420
手羽モト(〃)	290~350
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	380~500

が続く。「需要期のGWが明けてから、季節なりの動きはあるものの、外食・加工向けとも模様眺めが多い」との声もきかれた。夏場に向け、需要が鈍ること、為替が円高に振れていることから、5月中はやや軟調で推移する。

輸入物	
米国産モモ正肉(240g UP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350g UP)	350中心
米国産B I L	550~570
ブラジル産モモ正肉	450~460
ブラジル産モモ角切り	460~480
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	430~450
ブラジル産手羽サキ(50g UP)	600中心
タイ産モモ正肉	480~490
タイ産モモ角切り(25~30g)	460~470
米国産モモ串	玉なし

単位：円/kg

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 5月8日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,025	2,697	2,215	-	-
		安値	2,276	2,267	2,162	-	-
		平均	2,554	2,368	2,186	-	-
	82頭	頭数	57	19	6	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,184	2,443	2,210	2,006	-
		安値	2,233	2,218	2,107	1,379	-
		平均	2,556	2,325	2,182	1,788	-
	216頭	頭数	147	59	6	4	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	2,160	-	-	-	
1頭	頭数	-	1	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,789	1,729	1,588	
		8頭	頭数	-	4	1	3
	雌 C	平均	-	-	-	-	
		-頭	頭数	-	-	-	-
	去 B	平均	1,923	1,808	1,673	1,516	
		8頭	頭数	1	3	3	1
去 C	平均	-	-	-	-		
-頭	頭数	-	-	-	-		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	397 403	1,011 1,057	- 69.5	(競り)	(相対)	
				-	-	70

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	-	1,585	1,500	1,455	-
	B	-	-	1,395	1,430	-
和 去	A	-	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	928
	C	-	-	-	946	869
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	-	1,606	1,557	-
	C	-	-	-	-	-
交 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	637	840	714	638	558
	安値	606	572	529	454	162
	平均	625	605	568	551	481
	頭数	( 7)	( 294)	( 408)	( 210)	( 138)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 5月8日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,561	2,291	-	-	-
(頭数)	( 26)	( 6)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( 1)	( -)	( -)
和 去 A	2,557	2,234	-	-	-
(頭数)	( 35)	( 8)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,786	1,711	-	-
C	-	1,872	1,620	1,469	-
交雑去 B	-	1,833	1,721	-	-
C	-	1,752	-	-	-
豚	-	778	759	584	487

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	5月8日	5月7日	(5月累計)
豚	69,300	66,500	265,400
成牛計	4,140	4,670	13,170
和牛雌	980	1,130	2,870
和牛去勢	1,110	1,570	3,430
乳牛雌	720	500	2,420
乳牛去勢	540	540	2,100
交雑雌	350	360	930
交雑去	440	570	1,420

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 5月8日

	5月8日	(前日)
東京	1,595円	1,548円
大阪	1,721円	-円

[豚・全農建値] 5月8日

上	中	取引頭数	市況
600円	573円	1,200頭	強もちあい

と畜 売買	牛 99頭	豚 114頭	牛概況 弱もちあい
	牛 119頭	豚 113頭	豚概況 まちまち

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 5月8日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	594 (594)	- (-)	6,454	-	もちあい
仙台 [中]	568 (570)	493 (498)	258	76	小反落
栃木 [地]	- (-)	556 (-)	1,664	18	-
茨城 [地]	595 (-)	574 (-)	1,251	606	上伸
群馬 [地]	574 (581)	509 (513)	2,380	428	小反落
さいたま [中]	597 (579)	583 (566)	252	252	続伸
東京 [中]	605 (-)	568 (-)	1,011	1,057	小幅上伸
横浜 [中]	598 (-)	570 (-)	683	683	続落
山梨 [地]	582 (652)	590 (639)	187	130	反落
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	629 (664)	614 (631)	991	354	下押し
京都 [中]	- (-)	- (-)	88	-	上場なし
大阪 [中]	778 (-)	759 (-)	114	74	まちまち
神戸 [中]	656 (727)	646 (705)	48	125	下押し
岡山 [地]	651 (-)	645 (-)	307	370	もちあい
広島 [中]	615 (615)	579 (585)	314	40	もちあい
福岡 [中]	654 (627)	607 (590)	520	83	続伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 5月1日～5月7日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 823,728 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,061	1,179	1,296	1,182	39,983
うで	734	778	810	778	69,634
ロース	1,058	1,134	1,285	1,143	83,625
ばら	1,112	1,200	1,309	1,201	78,612
もも	755	799	853	806	96,915
ヒレ	1,057	1,066	1,426	1,145	7,076
セット	929	968	1,031	974	447,883

◇近畿圏 総重量 654,880 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,165	1,283	1,348	1,266	54,315
うで	756	799	828	793	109,804
ロース	1,069	1,177	1,285	1,176	81,836
ばら	1,199	1,265	1,306	1,253	121,589
もも	756	794	846	795	147,756
ヒレ	1,134	1,220	1,323	1,237	9,758
セット	941	1,004	1,124	1,027	129,822

[食鳥正肉日経相場] 5月7日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京(8社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪(2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	762	816	1,030	7
ムネ	424	475	590	6

[農水省統計情報部食鳥市況] 5月2日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,101	694	550	600	650
安値	780	432	290	360	350
平均	852	485	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男  
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

#### ■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

### ◆ステーションリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します